

# 郷ノ谷3号墳

—保存復元調査（第5次調査）報告—

1992年3月

太子町教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、兵庫県揖保郡太子町原字郷ノ谷931-1に所在する「郷ノ谷3号墳」の保存復元工事の調査報告である。
- 2 調査は、郷ノ谷3号墳の墳丘及、石室の破壊に伴い平成3年11月27日から12月4日に破壊箇所の確認清掃を、平成4年2月24日から同25日に石室の復元を実施した。
- 3 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・田村三千夫・海野浩幸が担当した。
- 4 本調査・整理作業にあたっては、太子町シルバー人材センター、首藤聖各氏の協力を得た。
- 5 遺構・遺物の実測は田村、首藤、海野が行ない、トレースは首藤が行なった。
- 6 本書の執筆・編集は、田村、海野が担当した。

## 本文目次

1 例言・・・・・・・・・・	1	3 調査の概要・・・・・・・・	3
2 調査に至る経過・・・・・・・・	3	4 まとめ・・・・・・・・・・	4

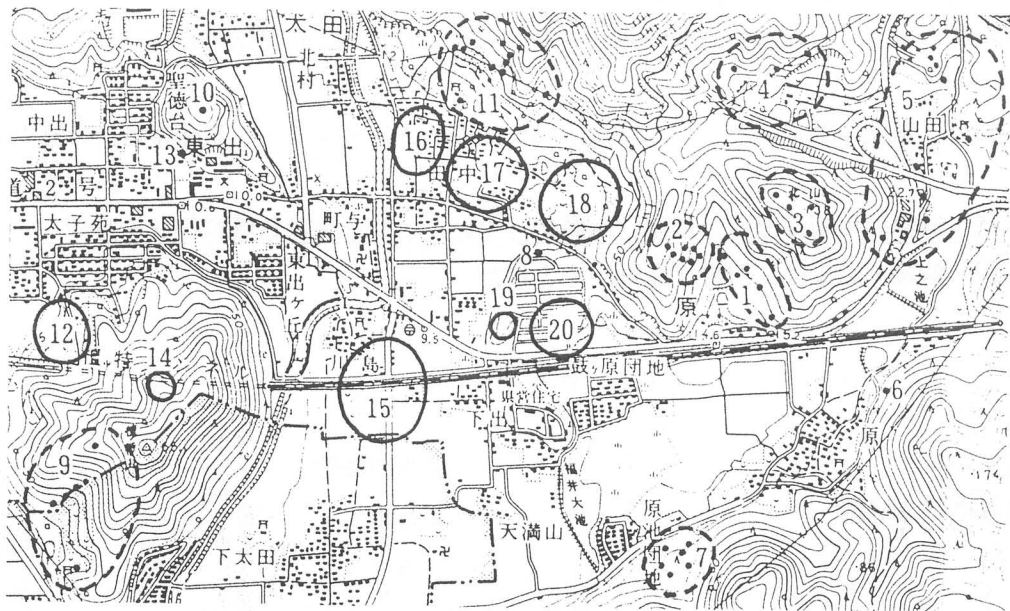
## 図板目次

第1図 周辺遺跡分布図・・・・・・・・	2	第4図 3号墳土層断面図・・・・・・・・	6
第2図 郷ノ谷古墳群位置図・・・・・・・・	3	第5図 3号墳石室実測図・・・・・・・・	7
第3図 3号墳墳丘測量図・・・・・・・・	5		

## 写真目次

写真1 3号墳破壊状況	写真5 玄室敷石面清掃状況
写真2 崩落箇所確認状況	写真6 復元作業状況
写真3 崩落箇所確認状況	写真7 復元作業状況
写真4 墳丘断面	写真8 復元完了状況

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 1 遺跡所在地 | 兵庫県揖保郡太子町原字郷ノ谷931-1            |
| 2 調査主体者 | 太子町教育委員会                       |
| 3 調査担当者 | 三村修次 田村三千夫 海野浩幸                |
| 4 調査期間  | 平成3年11月27日～12月4日、平成4年2月24日～25日 |
| 5 調査面積  | 20m <sup>2</sup>               |



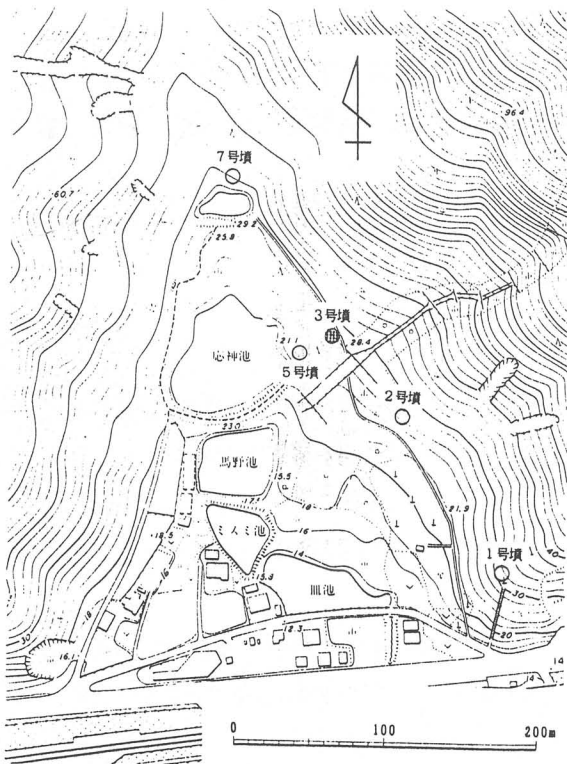
第1図 周辺遺跡分布図 (S=1/25000)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 郷ノ谷古墳群  | 11 黒岡古墳群   |
| 2 鷺山古墳群   | 12 栗原遺跡    |
| 3 北山古墳群   | 13 鷗荘平岩榜示石 |
| 4 山田大山古墳群 | 14 檀特山遺跡   |
| 5 山田古墳群   | 15 川島遺跡    |
| 6 原北町古墳   | 16 黒岡神社遺跡  |
| 7 塚村古墳群   | 17 太田田中遺跡  |
| 8 黒岡山古墳   | 18 原坂遺跡    |
| 9 檀特山古墳群  | 19 黒岡山墳墓群  |
| 10 東出古墳   | 20 原坂弥生遺跡  |

## 調査に至る経過

郷ノ谷古墳群は太子町の東部、城山（標高280m）から南に延びる尾根の西斜面の山麓に所在し、周辺には城山古墳群、北山古墳群、鷲山古墳群等が散在する。当古墳群は、太子町公共墓園造成工事に伴う二次に渡る調査で5基存在することが確認され、墓園内に永久保存されることになった。しかし、当古墳群の3号墳が造成工事中の不注意から墳丘と石室が破壊される事態が起り、その報告を受けた町教育委員会は即刻工事を中止させ、県教育委員会並びに工事責任者と協議のうえ石室の破壊状況を確認する調査を実施し、県教育委員会の指導により破壊箇所を復原することになった。また、今回敷石下の確認調査も併せて実施した。

なお、3号墳は6世紀後半に築かれた直径約17mの円墳で、南西に開口した右片袖の横穴式石室を内部主体にもつ。石室は盗掘により羨道部の一部が失われているが現存全長7.1m、玄室長3.0m、玄室幅1.8m、高さ2.6m、羨道幅1.2m、高さ1.7mを測る。石室の石材は、比較的大きさの揃った石材を用い、平面を内に揃えて積み上げられている。前回の調査では羨道部で閉塞石の残存と平瓶、玄室床面の角礫による敷石及、玄室袖部から耳環、蓋坏が検出された。



第2図 郷ノ谷古墳群位置図

## 調査の概要

### (1) 破壊箇所の確認

#### 墳丘部

墳丘中央部より南で東西約8.0m、南北約4.5mにわたって削られており、限られた部分ではあるが土層の観察を行った。墳丘西側では石室側壁には裏込め石は認められず、石室の3～4目までを石材を積みながら淡黄灰色及、黄色の地山岩崩土を互層に盛上げ、それより上を淡灰色地山岩崩土、褐灰色土、黄色土、白灰色土で版築状に盛上げ、黄色土と淡褐灰色土によって墳丘を整形していったことが観察される。同東側では西側と同一レベルにおいて版築状の盛土は認められず、これは斜面の自然地形を利用しているためと考えられる。

## 玄室部

天井石の羨道側の2枚と、左側壁面の右上隅部、右側壁面の左上隅部が崩落していた。

## 羨道部

2枚残っていた天井石の全部と、左側壁面の天井石と接する部分、右側壁面の3段目より上が崩落していた。

### (2) 玄室床面の調査

前回の調査で検出された敷石の下層の確認を行なった。その結果敷石の下層はそく地山であり新たな敷石や排水溝は検出されなかった。また石室の基底石は掘方を持たず地山を平坦に成形し直接据え付けていることが確かめられた。

玄室入口部分の敷石の間から鉄釘片が検出された。

### (3) 石室・墳丘の復元

復元には極力元の用材を用いることとし、不明な用材や目詰石等の不足した部分はよく似た石材で補足することにした。復元した箇所には復元期日を記入することとした。

作業は町教育委員会職員立会いのもと石積技術者が施行に当たり、微調整をしながら復元を行なった。まず石室内を玄室奥壁面と2～3段目までを土嚢袋で埋め戻し、40t レッカーを用いて袖石、羨道右側壁石、同左側壁石、羨道袖石上天井石、同南端天井石、玄室右側壁石、同左側壁石、玄室中央天井石、同南端天井石の順で設置していった。最後に補強の為に西壁裏込め部分にモルタルを打設した。

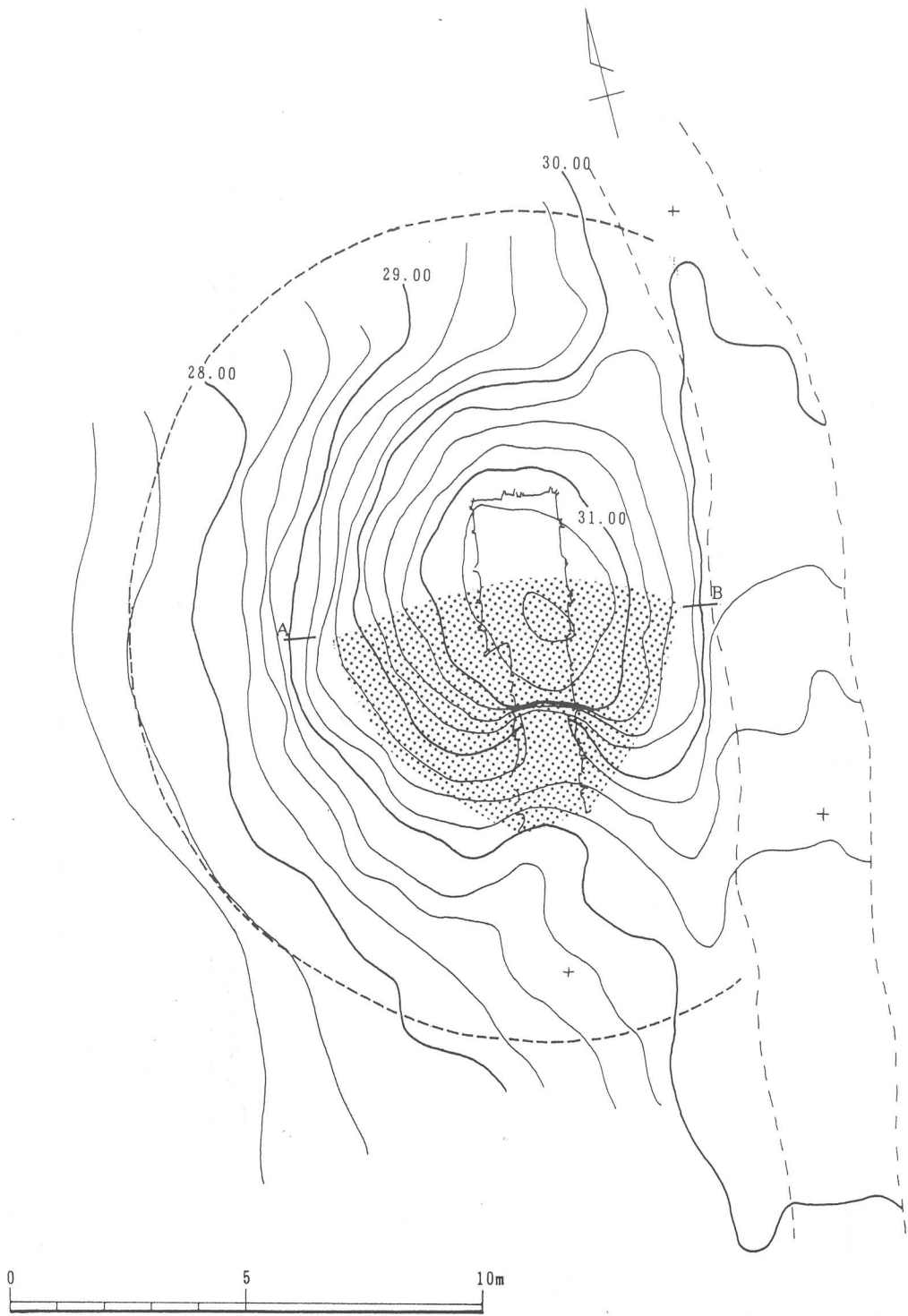
墳丘は削られた部分を土嚢及真砂土で盛土復元した。今後更に墳丘全体を張芝により養生するよう手はずした。

## まとめ

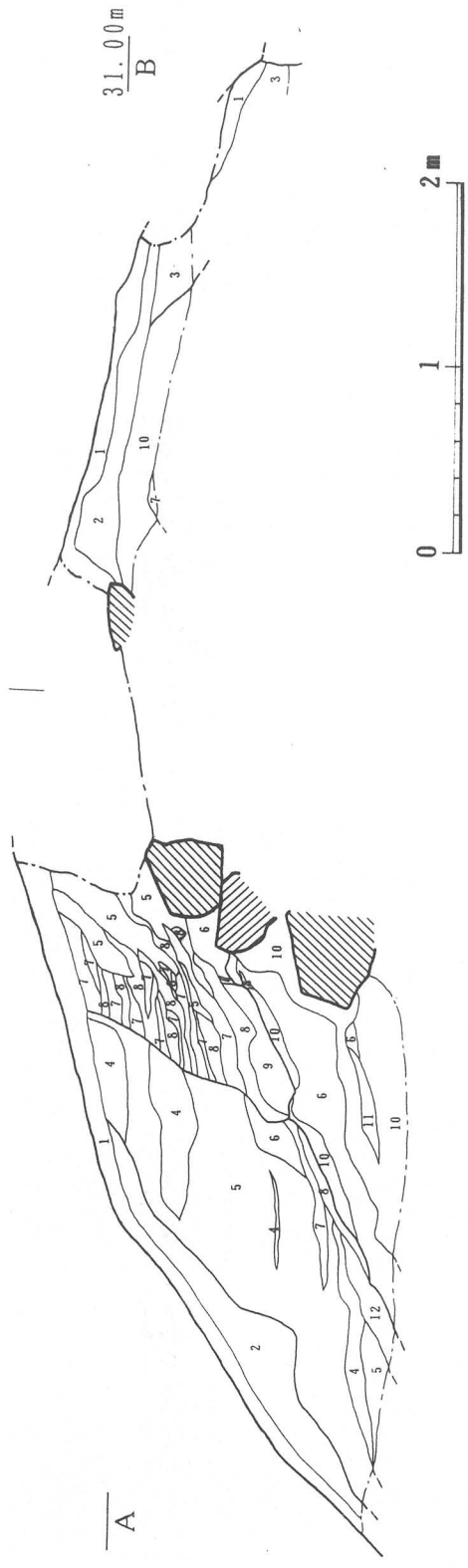
調査の結果、墳丘は丁寧に構築されているのが確認され、その技法の一端を把握することができた。埋葬形態については今回、玄室入口部の敷石の間から鉄釘片が検出され、その部分の石材の大きさ、レベルが揃っていることと前回の調査での遺物の出土状況とあわせてこの部分に木棺が安置されていたと推測される。埋葬回数については確かめることはできなかった。

石室の復元に当たっては初めての試みであり、県教育委員会の指導及、施行業者の協力により何とか満足の行く結果が得られた。又、石の積み方や隅の納め方等古代技術の高さや、それに費やされた労力が改めて感じられた。

今後このような調査を実施することがないように願うものである。

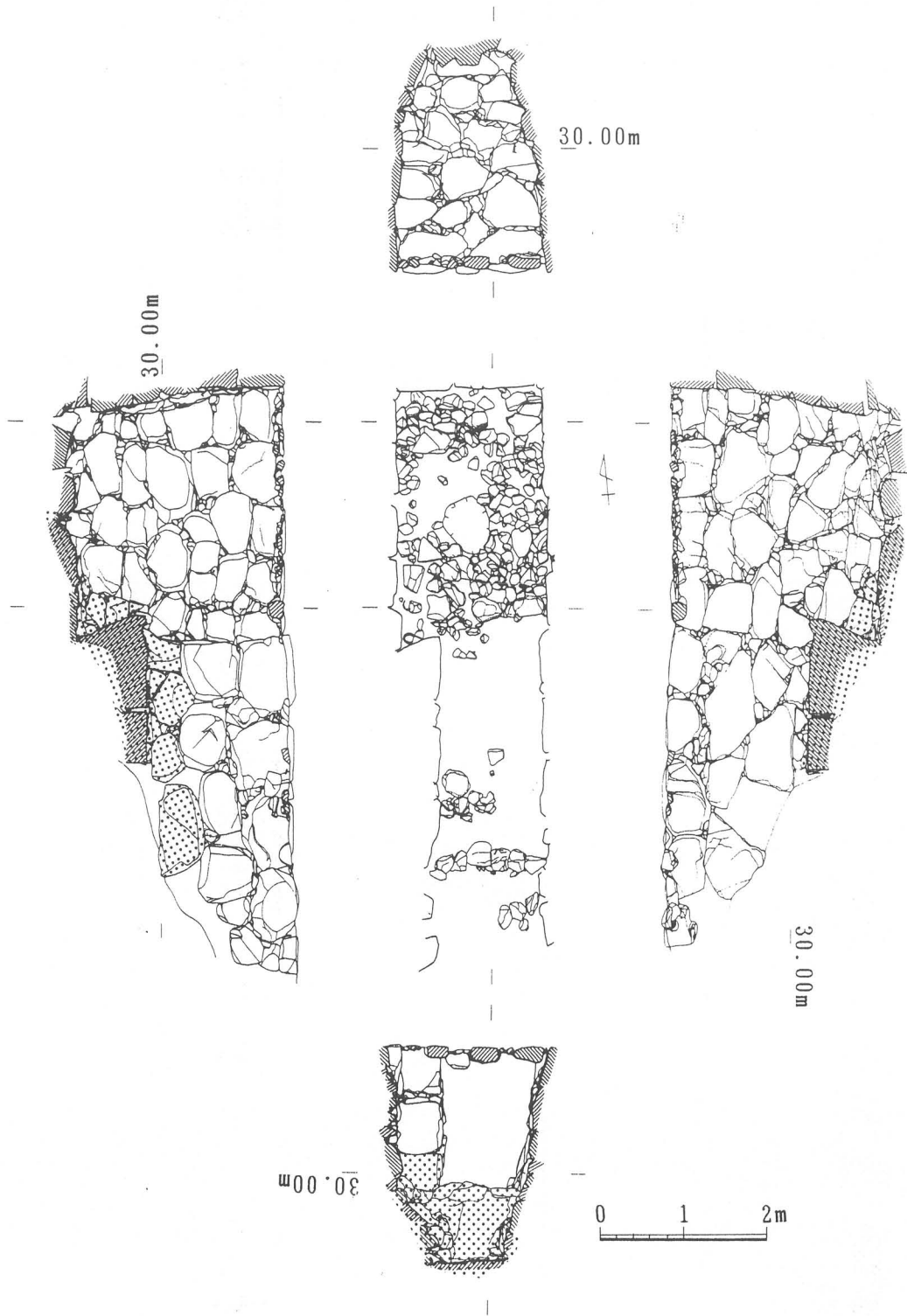



第3図 3号墳墳丘測量図 (  部分破壊箇所)



第4図 3号墳土層断面図

- |   |               |    |                          |
|---|---------------|----|--------------------------|
| 1 | 表土・盛土         | 8  | 褐色土                      |
| 2 | 淡灰黄色土 (軟質)    | 9  | 淡灰色地山岩崩土                 |
| 3 | 淡黄色土 (軟質)     | 10 | 淡黄灰色地山岩崩土<br>(非常に締まっている) |
| 4 | 淡褐色土          | 11 | 淡黄色地山岩崩土                 |
| 5 | 黄色土           | 12 | 淡褐色土                     |
| 6 | 黄色土 (地山岩崩土包含) |    |                          |
| 7 | 白灰色土          |    |                          |



第5図 3号墳石室実測図 (  部分破壊箇所)



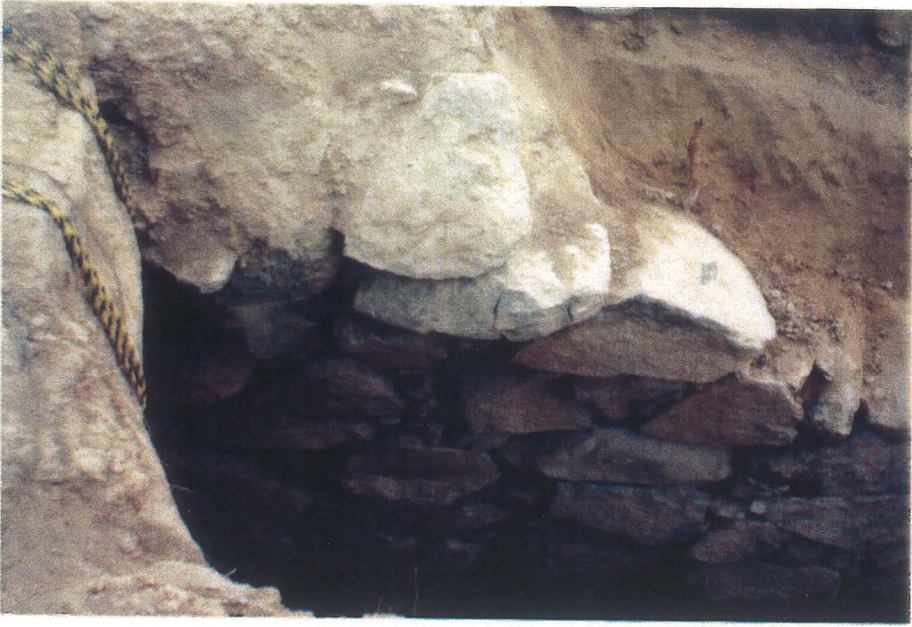




3号墳破壊状況全景（調査前 南から）



同石室内天井石落下状況（南から）



玄室左側壁面袖部崩落状況（西から）



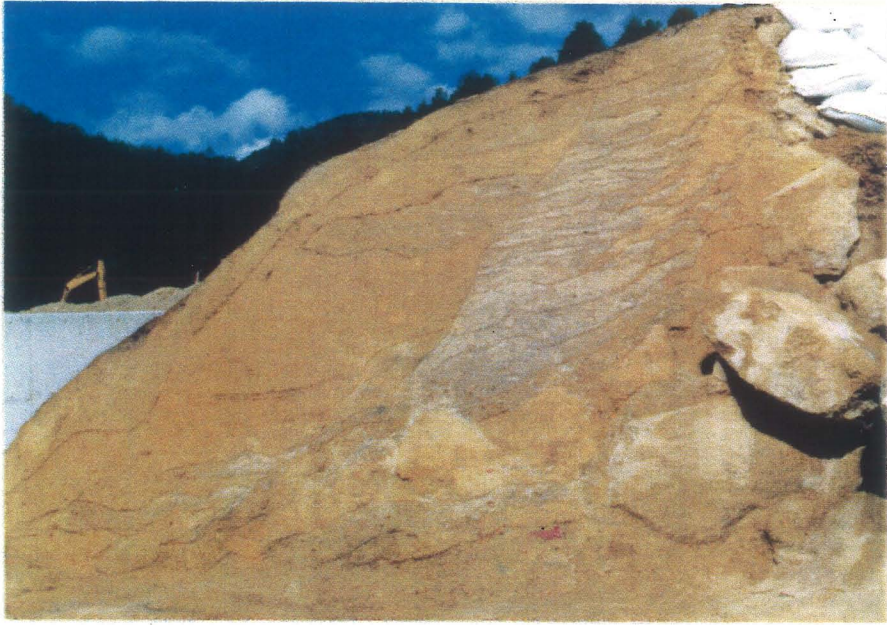
同羨道部崩落状況（西から）



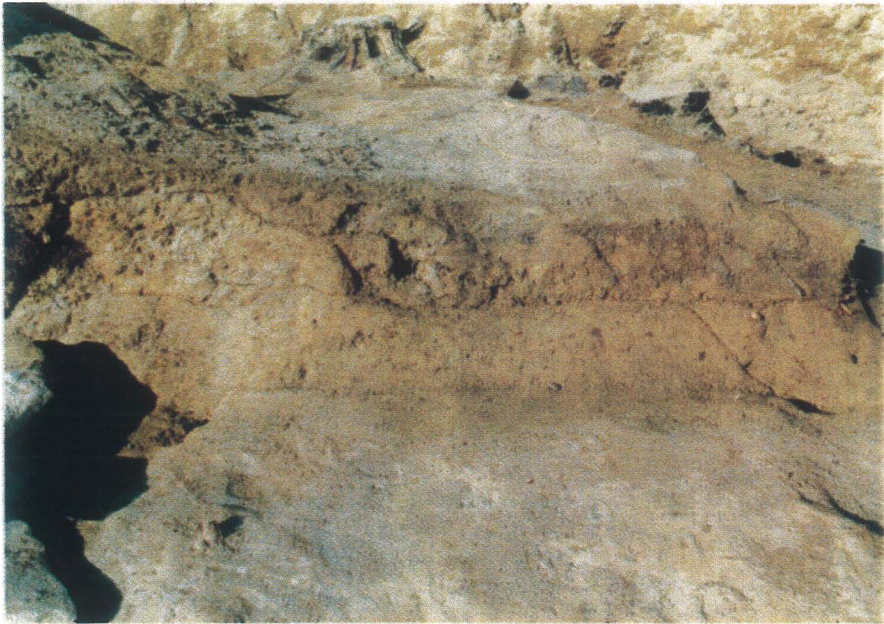
玄室右側壁面袖部崩落状況（東から）



同羨道部崩落状況（南東から）



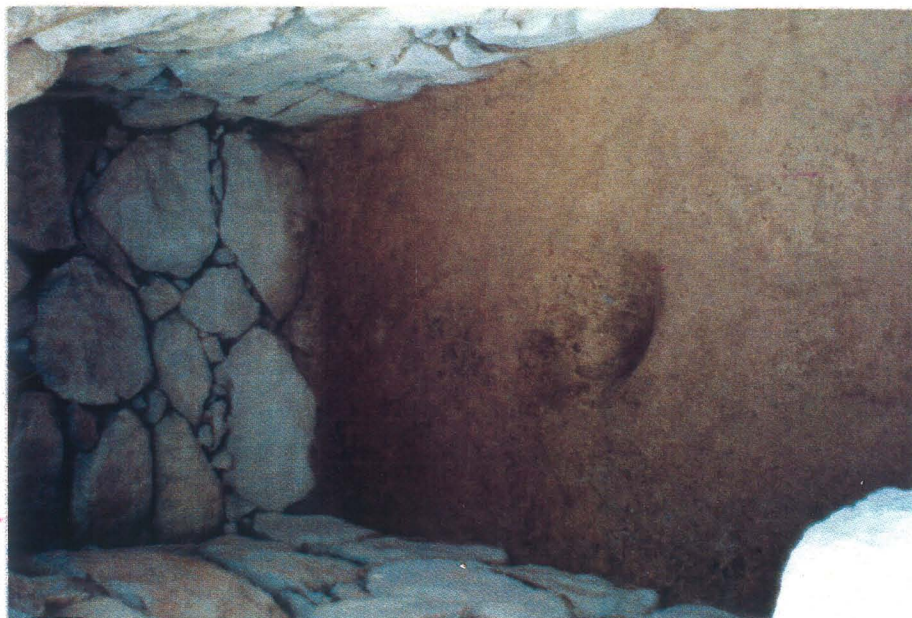
墳丘土層断面



墳丘土層断面



敷石面清掃状況



敷石面除去後



復元作業状況（石室内埋戻完了状況）



復元作業状況（復元石材への注記）



復元作業状況（レッカー車による石材の吊上）



復元作業状況（石材据付作業状況）





石室復元完了状況



墳丘盛土後

